

モンゴル異文化理解・共生体験研修

2017年8月25日～9月1日（8日間）



研修先	モンゴル ウランバートル
対象者	情報学部生（他学部学生の参加も可）
募集人員	15名（教育上の配慮から学部・学科間等の調整を行なうことがあります。）
参加費用	調整中
申込締切	5月22日(月)（16:40まで）
申込先	国際交流センター国際交流室(事務棟2階)

モンゴル異文化理解・共生体験研修について

研修日程 2017年8月25日～9月1日（8日間）

- 1日目 成田発 ～ ウランバートル着
- 2日目 モンゴル国立科学技術大学生と交流 伝統舞踊
- 3日目 大学訪問 市内見学 グループ行動
- 4日目 キャンプ場へ移動 文化交流 ゲルホテル泊
- 5日目 お互いの文化紹介・交流 ゲルホテル泊
- 6日目 遊牧民ゲル訪問体験 市内へ移動
- 7日目 市内見学 歓送会
- 8日目 ウランバートル発 ～ 成田着

（実施内容は変更になることがあります）



この研修で体験できること（研修目的）

- ・ モンゴルの学生と交流し、異なる視座から日本を再考できます。
- ・ いま日本では、世界の人々と一緒に働くことができる力を新たな社会人力として期待されます。そんな社会の変化に対応するための第一歩として異文化交流ができます。
- ・ ユーラシア大陸の文化にふれることができます。アメリカでもアジアでもない世界が私たちの近くにあると感じ、世界の大きさにびっくりして欲しいと願っています。

こんな人に向けています

- ・ 海外に行くことを不安に思っている人
 ⇨ 大学の研修なら教員も同行するので安心です。
- ・ 一般的な観光旅行ではできない経験をしたい人
 ⇨ 同世代のモンゴルの大学生と交流することにより本当の現地の人々の価値観などに触れることができ、思い出に残る旅行になります。
- ・ 視野を広げたいと思っている人。
- ・ 自分の将来につながるように「何か」始めたいと思っているが、まだ「何か」を探している人。



モンゴル異文化理解・共生体験研修について 2



参加申込について

「参加申込書」に必要事項を記入し、5月22日（月）16:40までに国際交流センター国際交流室へ提出

（確認事項）パスポートを取得済みの方は、有効期限が2018年3月末日まで、および、余白が2ページ以上あるかを確認してください。パスポートをまだ持っていない方は、情報学部国際交流委員、または、国際交流センター国際交流室に事前に相談してください。

パスポートの新規申請について（例：神奈川県）

神奈川県で申請できるのは、原則として住民登録が神奈川県の人だけです。ただし、神奈川県内に居住中の学生も申請が可能です。

必要書類については、Web等で確認してください。（神奈川県パスポートセンター：
<http://www.pref.kanagawa.jp/osirase/02/2315/index.html>）

申し込み後のスケジュール（予定）

- ・ 旅行者による説明オリエンテーション
- ・ 事前研修（モンゴルと日本の社会・文化の違いについて学びます）
- ・ 夏季休業中はコミュニティサイトで交流し、研修に備えます。

モンゴル異文化理解・共生体験研修について 3

～過去の研修参加者からのメッセージ～

「多くの出会い、学びの機会」 2016年度参加者 飯田健太郎さん（情報学部）

モンゴルは、想像していたよりも近代的なビルが広がり、学生の多くは、スマホを持っていました。同年代の学生と共に市内見学をし、互いの文化や大学について紹介したり等の交流を通して、多くの学び、発見がありました。ゲルホテルに宿泊した際、どこまでも広がる大草原の中を自動車が走っている光景は、まるでCMを見ているかのように感じました。この研修プログラムで異国の地で友人が出来たことは、私の一生の宝です。大学の研修プログラムだからこそ、学べることが多くあります。ぜひ参加してみてください。〔★写真：後列左が飯田さん〕



「モンゴルの異文化に直接触れる」 2015年度参加者 鈴木美里さん（国際学部）

私がモンゴル研修に参加しようと思ったきっかけは、英語圏以外の国に行ってみたくと思ったからです。モンゴルでは、モンゴル人の学生と多くの交流をしました。お互いの国の文化を紹介しあう会では、実際にモンゴルの民族衣装を着ることができたり、モンゴルの学生が歌を歌ってくれたりと、楽しみながらモンゴルの文化を学ぶことができました。また、ゲルホテルに宿泊するなど、日本では体験できないようなことを多く体験できたので良い経験になりました。〔★写真：右側が鈴木さん〕



「国を越えた人のつながり」 2014年度参加者 神保 美幸さん（情報学部）

モンゴルの首都ウランバートルは予想以上に都会で、モンゴル＝草原というのがイメージに過ぎないことを実感させられました。研修中は毎日が初めてみる世界でわくわくし、言葉や文化が違って同じことで笑い合えるのだと嬉しくなりました。一緒に研修に行った学生、モンゴルの学生と知り合えたことと、モンゴルでの思い出は私の中で大きな財産となっています。モンゴルに行く機会、まして同じ年代のモンゴルの大学生と交流できる機会はこの研修でしかないと思います。行って後悔することはないので、ぜひ参加してみてください。

〔★写真：左端が神保さん〕

